

序 説

眼科は、単に眼球やその周囲の構造の局所異常を扱うだけでなく、視覚や眼球運動といった神経眼科領域やさまざまな内科的疾患に関連した病態も含み、眼に関する幅広い領域を網羅しています。周産期異常や先天性疾患などの新生児・乳児・小児から白内障のお年寄りまで幅広い年齢層の患者さんを対象とし、疾患は多岐にわたります。さらに、高齢化社会による加齢性疾患の増加、コンタクトレンズやスマートフォンの使用に伴う新たな眼科疾患など、時代とともに社会におけるニーズはより大きくなっているものと考えます。

眼科疾患の画像診断においては、眼科独自の画像検査が多くありますので、われわれ放射線科医への画像検査依頼が多いわけではありませんが、眼科的診察が困難な場合や、眼球・眼窩周囲の評価、神経眼科領域の精査、背景疾患の評価・検索等を要する場合など、放射線科での画像検査が依頼される場面は少なくありません。患者さんの主訴からどのように画像診断を進めるべきか放射線科医として考える際には、解剖や疾患・病態を想像することが求められます。また、頭部/頭頸部CT・MRIの読影中に偶発的に眼科疾患を見つけることもありますので、放射線科医として眼科領域の画像診断を知ることは重要と考えます。

本特集では、エキスパートの先生方に、眼科に関連のある眼球・眼窩・脳槽・脳幹・海綿静脈洞の解剖や疾患の画像診断を解説していただきました。読者の皆様の日常診療に役立てていただければ幸いです。

最後に、大変ご多忙なか、また、限られた誌面にもかかわらず、大変素晴らしい原稿をご執筆くださいました先生方に、この場をお借りし御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

東 美菜子